

自民党・核兵器廃絶推進議連

被爆実相の効果的な継承など申し入れ



阿部文科大臣（中央）に申し入れ書を手交する寺田衆院議員（同左）ら

自民党「原子爆弾被爆者救済並びに核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を推進する議員連盟」（会長・寺田稔衆院議員）らが6月19日、文部科学省を訪れ、阿部俊子文科大臣に被爆実相の効果的な継承などを訴える申し入れを行った。

申し入れ書では、貴重な被爆者の体験を次の世代や世界が追体験し、被爆の実相に対する理解や平和祈念の思いを一層深めることができるよう努めることを訴えている。

被爆体験を次世代に語り継いでいく「被爆体験伝承者」の派遣については、積極的な事業の実施に取り組むとともにAI・VRなどデジタル技術を活用した、被爆体験の新たな継承についても取り組むことを要望した。

全国的な被爆体験の継承を進めるため、式典参列および平和学習を目的に被爆地に若者を派遣する各自治体の費用について支援することを求めたほか、被爆者の減少を見据えた資料館の展示の充実および発信機能の強化に係る費用について必要な支援を訴えた。

また、広島の新陸軍被服支廠について、耐震工事を含む安全工事を適切に執行すること等も要望した。

阿部文科大臣

ユニセフ事務局長が表敬訪問

ユニセフのキティ・ファン・デル・ハイデン事務局長が6月19日、文部科学省を訪れ、阿部俊子文科大臣を表敬した。

表敬は冒頭のみ公開され、ハイデン事務局長は「文部科学省は70年にわたり、ユニセフに協力頂いており、また日本ユニセフ協会の学校募金にも支援を頂いている」とし、感謝の意を表した。

阿部文科大臣は「世界中の子どもたちの命と健康を守るため、必要な支援を続けていることに心から敬意を表する」と述べることも



阿部文科大臣⑤とハイデン事務局長

文化審議会

原爆ドーム「特別史跡」指定へ

文化審議会（会長・島谷弘幸国立文化財機構理事長）は6月20日、原爆ドームを特別史跡に指定することを文部科学大臣に答申した。

原爆ドームは、1945年8月6日にアメリカ軍が広島に投下した原子爆弾により被爆した建物。15年の建築で、33年に広島県産業奨励館と改称された。被爆当時の姿をよく保ち、第二次世界大戦末期に人類史上初めて投下された原子爆弾の惨禍を示す、被爆遺構の中でも象徴的存在となっている。95年に国の史跡に指定、96年には世界遺産に登録された。



原爆ドーム

に、「文部科学省としては、これまでユニセフの学校募金事業の周知を続けてきており、これからも続けていきたい」と語った。